

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.106

「モネの庭」のある村

高知県 北川村長
おおてら まさよし
大寺 正芳



北川村は、高知県東部に位置し、東西 18 km、南北 42 km と南北に細長く、村の中央を奈半利川が流れる、総面積 196.18 km²、面積の約 95% を森林が占める山村で、主な産業は、施設園芸、米、ゆず栽培や林業など一次産業が中心の村です。

北川村は、江戸時代末期の激動期に坂本龍馬とともに活躍した中岡慎太郎先生を輩出しており、生誕地である柏木地区には、先生の功績を称え、関係資料を保存・展示した中岡慎太郎館や復元された生家があります。村の特産品となっている「ゆず」は、中岡先生が栽培を奨励したとされています。

また、村の中部には純アルカリ泉の北川村温泉があり、最近発行された旅行雑誌のアンケート調査で、「お湯の質」と「貸切風呂」の部門で、県内一位の評価をいただいたところです。

さらに、平成 12 年 4 月に開園した「北川村モネの庭マルモッタ」は、フランスの有名な画家であるクロード・モネの自宅の庭を再現し、フランスの庭以外では、世界で唯一「モネの庭」という名称を頂いており、本年 1 月には来園者が 94 万人を突破しております。

本年 3 月から高知県内で開催される「花・人・土佐であい博」とも連携し、交流人口拡大に向け、新たな魅力を創出するため、園内の一部を「光の庭」として整備を進め、3 月 1 日にオープンさせる予定です。庭の維持管理のアドバイスをお願い

しているフランスのモネの庭の管理責任者からも“年を経るごとにその趣は増している”との評価を頂いております。

北川村の中央を流れる奈半利川は、四国山地に源を発し、切り立った地形の中で急流を形成しながら土佐湾に流れ出ており、住民はその本支流沿いに集落を作り、鮎・うなぎなど豊富な種類の川の恵みを、独特の漁法（金突き・火振り漁）を用いて捕らえ、生活の糧としてきました。

奈半利川は、温暖で降水量が多い地理的条件や急流であることが注目され、昭和 30 年代には高度成長を支える国策として電源開発事業が開始され、流域には 3 つのダムと発電所が建設されました。電力供給に大きな貢献をする一方、ダム建設により下流域では、流水が激減し減水区間の出現、それに伴う魚種の減少や絶滅種も出てきたほか、独特の漁法も衰退の一途をたどっている状況です。山地の荒廃は、雨のたびに泥流となりダム湖に注ぎ、発電後そのまま放流されており、ダム建設前は清流として名高かった奈半利川も長期にわたる濁水が深刻な問題となっています。

流域町村をはじめ関係機関が一緒になって、濁水問題の改善に向けて検討を鋭意行っております。

私たちの大切な財産である奈半利川の清流を取り戻すことができるよう、最大限の取り組みを進めていきたいと考えております。



中岡慎太郎館



北川村温泉 ゆずの宿



モネの睡蓮（太鼓橋） 撮影：桐野伴秋